

大分ゆふみ病院におけるメディカルソーシャルワーカーの役割について

メディカルソーシャルワーカー (MSW) 大澤 理恵

平成 25 年 7 月 10 日、大分医療センター 地域医療福祉セミナーにて講演の機会を頂きました。その時の講演内容を紹介させていただきます。

1. はじめに

当院に相談に来られる多くの方は『ホスピス=死を待つところ』『一度入ったら死ぬまで出られない』『いよいよの人が来るところ』という思いを持ち相談に来られます。

当院は死を待つところではなく生きる場所であること、外出・外泊もできること、不快な症状が緩和され自宅退院される方もいること、そして本来のホスピスの姿をお伝えしています。

家族との時間を大切にする方、趣味を継続する方、新たな趣味と出会う方、自身の役割を全うするための準備をする方と当院での過ごし方は様々です。

2. 業務内容について

業務内容	2. 入院予約者の相談・入院調整
<p>1. 相談・見学・外来への対応</p> <p>〈説明・確認事項〉</p> <ul style="list-style-type: none">① 入院基準<ul style="list-style-type: none">・ がんによる症状があり、入院での緩和ケアが必要と判断された患者・ がんの告知を受け、がんであることや、自身の状態を理解している (※ 予後告知の必要はない)・ 患者と家族が入院を希望している② 本人の体調・困っていること ⇒ 当院での治療に関すること③ 当院に入院する目的 <p>〈伝えたいこと〉 ※ この先どのように生活したいのか考えて欲しい。</p>	<p>〈自宅待機者〉 在宅サービスの必要性の確認、待機期間が長い時は紹介元と相談をし、体調不良時の受け入れや他院紹介を依頼する</p> <p>〈入院調整〉 待機の順番が近くなったら、その旨を連絡し入院の意思確認を行っている。</p> <p>3. 患者・家族情報の共有</p> <p>入院するまでの相談はMSWが受ける</p> <p>⇒ これまでの情報(気になること、課題)をPDr、PNsへ申し送る</p>
<p>4. 入院患者・家族の相談</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日常のことから、亡くなる時のことまで様々<ul style="list-style-type: none">・ 歯医者にかかりたい・ 散髪したい・ 外出・外泊したい・ 亡くなったあとの準備をしておきたい・ 自宅退院時の準備・ 気がかりなこと、思いの表出、人生の振り返り	<p>2012年度の実績</p> <ul style="list-style-type: none">・ 相談件数 (入院中の相談は除く)<ul style="list-style-type: none">総相談件数 : 1430件新規相談 : 317件継続相談 : 1113件・ 入院 : 174名 (再入院30名)・ 退院 : 181名<ul style="list-style-type: none">永 眠 - 149名外来移行 - 23名

① 相談・見学・外来への対応

患者・家族の多くは治療病院で『これ以上の治療は難しい。緩和ケアを専門に行う病院を紹介します』と伝えられ来院されます。

来院される方は、初めてホスピスを訪れるということもあり、不安と緊張の面持ちで来院されます。

また、入院相談外来に来られる多くの方は『紹介状を書いてもらったので、入院の予約をしないといけないのではないか』という思いも持っています。

当院の入院基準を説明し、『入院予約の最終決定は患者本人の意思』ということをお伝えします。入院するのは患者自身であり、最後になるかもしれない療養場所は本人に選んでほしいと考えています。

当院への相談を『この先どこで、どのように療養したいのか。療養してもらいたいのか』ということを考えるきっかけにして欲しいとお伝えしています。

② 入院予約者の相談・入院調整

入院待機中の療養場所の相談をします。自宅療養であれば、在宅サービスの導入や緊急入院先の確認を行っています。

また、入院の順番が近づいた段階で入院の意思確認を行っています。

③ 患者・家族情報の共有

入院するまではMSWが相談窓口になっています。

入院決定後、主治医・担当看護師にこれまでの情報、MSWとしての気づき等を申し送ります。また、必要に応じて相談を継続して行い入院後も情報を共有していきます。

④ 入院患者・家族の相談

入院中の相談は様々で、訪問歯科依頼、散髪、外出・外泊の準備、亡くなった後の準備など多岐に渡っています。

訪問歯科を希望する方の中には『食べられるうちは、美味しく食べたいから治療したい』『もう一度ちゃんと噛んで味わいたい』という思いを持って希望する方もいます。

また、散髪も日常の身だしなみや『最後の身支度』として散髪を希望される方もおられます。

亡くなった後の準備は患者自身から相談を受けることもあります。実際、葬儀社の方に来て頂き病室で自ら打ち合わせを行った方もいます。

また、症状が落ち着いて退院される方もおられ、訪問看護師、ケアマネジャーと調整し在宅の準備をすることもあります。

3. 思い出深い患者さん

思い出深い患者さん

63歳 女性 入院期間：20日
キーパーソン：友人

☆ 本人の希望：『亡くなった後の整理をしておきたい』
⇒ 亡くなる2日前に遺言を遺すことができた
直後の言葉 『花火が打ちあがった』

☆ MSW(私個人)としての心残り

相談当初から「私には身内がないから、亡くなった後の整理をしておきたい」と話されていました。

入院の連絡をした時も「家でもう少ししたいことがあるから」と一旦は保留を希望されました。自宅では思うように作業が進まないこと、きつさも増している状態であり「外出・外泊もできること、入院して作業に専念できる環境を作った方が良い」とお伝えし、入院を決められました。

① 本人の希望：『亡くなった後の整理をしておきたい。遺言を遺したい』

自宅療養中から法テラスに相談に行き準備をしていましたが、入院後は病状の進行により外出も難しい状態でした。遺言書の内容もほとんど決まっていない状況であり、このままでは本人の希望が叶えられないと感じ、法律専門職への相談を勧めました。

「遺言書の内容を一緒に考えて欲しい。話を聞いてもらいながら整理したい」と希望され、一緒に内容を整理していきました。

遺言の他にも葬儀のこと、寺やお墓のことも準備されました。

② 遺言を遺した直後の言葉：『花火が打ちあがった』

遺言作成直後に両手を挙げて笑顔で「花火が打ちあがった」と話されました。厳しい体調の中での遺言でしたが、希望が叶った瞬間でした。

③ MSWとしての心残り

遺言書作成の前日に「もうきつい、こんな思いをしてまでしないといけないの」と話されました。

その時の私は「明日遺言が遺せる。これまで頑張ってきた希望を叶えることができる。明日まで頑張ろう」と伝えました。これまでの『遺言書作成』という目標を持

ち、その過程から彼女の人生観を共有し、何を大切にしているかを感じてきました。十分頑張っている彼女に頑張れとは酷だったと思います。ただ、それまでの頑張りを無にしたくない、最期の時に後悔を残して欲しくないと思いました。

遺言書が作成できたことは彼女が「花火が打ちあがった」と表現しているように彼女の人生の集大成でした。

一見すると、最大の希望が叶えられたように見えます。きつきからその希望を投げ出したくなったことやその2日後に永眠されたことを思うと、もっと早くアプローチできなかったのかと考えます。

入院中のほとんどの時間を亡くなった後の準備に費やしました。それが、彼女の希望でもありましたが、それが早く終わっていればもっと違う過ごし方もあったのではないかという思いを残しています。

④ 患者さんへの感謝の気持ち

遺言書や亡くなった後の相談をする中で「私（MSW）との話は、死を前提としたその準備の話ばかりであり辛くないか」と聞いたことがあります。

彼女からの返事は「思っていることを先に話してくれる。何故考えていることが分かるのだろう。これは私がしなくてはならないことだから辛くない。一緒に手伝ってくれてありがとう」という言葉でした。

また、夫から貰った時計とネックレスを形見として受け取ってほしいと申し出がありました。立场上受け取ることはできませんでした。

その時も「受け取らないのは分かっていた。そんなあなただから受け取って欲しいとも思ったし、気持ちを伝えたかった」と話されました。形見こそ受け取れませんでした。彼女との時間を通して『私がここにいる意味』という大きな気づきを頂きました。それが今も私の力となっています。

一緒にいられた時間はわずかでしたが、彼女の人生に寄り添った大切な時間でした。

4. 大切にしていること

十人十色という言葉があるように、生きてきた人生や価値観は人によって違います。

『人生観に寄りそい、患者・家族が大切にしていることを一緒に大切にする』ためには、その人が何を大切に、今何を望んでいるのかを感じ取る力が大切だと思っています。

そのためには、私自身の考え方や人生観、自分自身を理解することも必要だと思っています。

今を生きる患者・家族の『今、この時』をキャッチし、一緒に悩み、考えていく姿勢を持ち続けたいと思っています。

5. 終わりに

当院への相談には、治療が難しくなった方、最後の治療を受けられている方、これから治療を開始される方とそれぞれのタイミングで来られます。

ある患者さんの言葉があります。

「これから治療を始めます。このまま良くなればいいけど、難しい場合もあります。治療を始める前に見ておきたかった。もし、難しくなった時に自分で相談に来ることができないかもしれないから。最後に生活する場所は見つかりました。頑張ってきます」

入院予約の基準はありますが、相談の基準はありません。

当院への相談が、これからの人生やどう生きたいのかを考えるきっかけにさせていただきたいと思っています。